

山陰近畿自動車道 技術検討会（現地視察）の概要

1. 日 時

令和元年 11 月 11 日(月)
 (沖村会長、森川委員、中川委員、杉浦委員)
 令和元年 11 月 19 日(火)
 (芥川委員)

2. 場 所：豊岡市内

3. 委 員：[会長] 沖村 孝 神戸大学 名誉教授
 森川 英典 神戸大学大学院工学研究科 教授
 芥川 真一 神戸大学大学院工学研究科 教授
 中川 圭正 国土交通省 近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所長
 杉浦 正彦 兵庫県 但馬県民局 豊岡土木事務所長
 小山 健一 兵庫県 県土整備部 土木局 道路企画課長

4. 議 事：

- (1) 技術検討会の進め方について
- (2) 地表地質踏査（速報）を踏まえたリスク評価について
- (3) 想定されるリスクにかかる現地状況について
- (4) 今後の調査方針（案）について

5. 議事内容（主な意見）：

- | | |
|----------|---|
| 調査方針 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 調査方針について、事務局案のとおり了承。 ①左岸側：ボーリング 1 本及び電気探査 1 測線（二見水源リスクを確認） ②右岸側：水平ボーリング 1 本（閃緑岩岩脈貫入リスクを確認） |
| 地質リスク | <ul style="list-style-type: none"> ○ 二見水源の水量・水温について、既存のデータをできる限り収集すること。 ○ 北但層群の上に玄武岩が台地を形成する地質構成でのトンネル現場はあまり例がなく、地下水影響に関する既往文献も少ないため、北但層群でのトンネル掘削事例として山陰近畿自動車道のこれまでの施工事例も確認すること。 ○ 右岸側について現時点で地すべりリスクを判定するのは難しいが、既往ボーリング調査結果も活用し、考察を加えること。 |
| その他の検討事項 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 進入路や施工ヤードなど、仮設計画についても検討すること。 ○ JR 近接施工、河川流況への影響や周辺の自然環境（ひのそ島など）への影響なども現時点でできる検討を並行して進めること。 ○ 常に海水の影響下にあることを踏まえた塩害対策を検討すること。 ○ フォトモンタージュを作成するなど、景観についても検討を進めること。 |
- 次回は、年末頃を目途に第 2 回を開催予定

